

夏季号

Y-MOT ネットワーク通信 Vol. 8

(山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻)

「都市ネットワークを活かすー観光地ブランド価値を高める取り組み」

(特別寄稿)

山形大学国際事業化研究センター

高澤由美氏



ドイツTWIKE社の「ペダルと電気のハイブリットカー」に乗車する筆者

2月、オーストリアとフランスを訪れた。テーマのひとつである、欧洲の「都市ネットワーク」の動向を調査するためだ。

欧洲では自治体レベルの様々な目的をもつ国境を越えた都市ネットワークが多様に広がっている。日本のそれと違うのは、都市間の交流や情報交換だけではなく、ネットワークを組むことで国やEUレベルの政策に対する発言力を強めたり、先進的な取り組みをして知名度を高めたり、個別の中小都市では困難なことを、目的に応じて他の都市と手を携えることで可能にしていることである。

今回の調査対象のひとつ、“Apline Pearls—アルプスの真珠”は、環境に優しいモビリティを利用したツーリズムを推進するアルプス地方の自治体ネットワークである。

“Apline Pearls”的本部が置かれるオーストリアのヴエルフェンベンディングはもともと観光が主要産業であったが、「豊かな自然」が売りの平凡な観光地にすぎず、集客力も伸び悩んでいた。しかし今では人口900人の村に年間4万人の観光客が訪れ、平均5日間も滞在している。

なぜか。ヴエルフェンベンディングは“環境低負荷型リゾート地”へと生まれ変わったのだ。

し気分になる。ハルブエンディングでは、環境に優しく居心地の良いリゾートライフが体験できる。「環境低負荷型」は時代にも適合してプラスのイメージに作用した。

こうした取り組みが、観光客の足を「エルフ・ヴァンゲ」に向けさせ、しかもCO₂排出量の低減に成功している。

今では、廃業していたホテルの復活やレストランの新規開業によって雇用も創出している。

しつかりした社会システムをつければ、何かを我慢したり制限されることなく環境負荷を低減することができ、そのしくみ自分が観光資源となりえる好例といえよう。

「エルフ・ヴァンゲ」は環境に優しいリゾートづくりを広めるため「A-ri-p-e Pea-r-s」の活動を主導し、オーストリア、ドイツ、イタリア、フランス、スロベニア、スイス6カ国24地域とネットワークを構築してい

「エルフエンヴェンジングには自家用車を使わなくては村内を移動し楽しめる仕組みがあり、再生可能エネルギーによる電力の供給を進めている。鉄道とシャトルバスを乗りついで村に到着すれば、無料で様々な“移動手段”をレンタルすることができる。

電気自動車やバイオガスで走る自動車、自転車はもちろんのこと、レジャー用としてセグウェイや馬車、冬はスキー、スケート、ソリまでレンタル可能だ。村には電気自動車の充電設備やトレインコースなどソフトモビリティを楽しむための設備が整っている。やむを得ず自家用車で訪れた人も、滞在中、車に車の鍵を預ければ、このサービスを受けることができる。

ちなみにこの運営資金は、宿泊費に1泊当たり1ユーロをつっそり加算することで賄っているのだ。

これだけではない。エルフエンヴェンジングは“リゾート”を謳っているだけあって、宿泊施設、レストランのホスピタリティや景観にも配慮し、質の高い滞在を提供することを重視している。

村長のベーターさんは、誇らしげにそして嬉しそうに村の隅々まで案内してくれた。アルプスの山々に馴染む景観、山麓に広がる太陽光発電のパネル、グリーンツーリズムを実践する民家、雪質の良いスキーエンジニアなどのほど、日常を離れて長い間滞在した

ナットワークを結むことで環境負荷の低減の効果拡大をねらい、アルプスを核に地域のブランド価値を高めようとしている。

また、高品質の滞在を実現するため、交通量の制限や乗り入れ禁止区域の導入、地域文化や景観の保全などの加盟基準を設け、その管理を徹底している。

加盟都市はネットワークの活動を通して最新の情報を得たり、環境負荷低減のための技術やノウハウを習得したりする。

そして各国のマスメディア向けの積極的な広報活動によってイメージアップの恩恵を受けている。こうした取り組みは欧州でも注目を集め、環境やソーリズムなどの分野で10以上の賞を受賞し、知名度が高まっている。

島国日本も世界的な都市間競争にさらされつつある。

地方の小都市でも水平の連携の強みを活かせば、競争力と持続可能性を高め得ることを、ヴエルフエンヴェーブと“ Alpine Dear Is.”から学ぶことができるのではないだろうか。



無料の馬車ツアーとアルプスの夕景

(NPO)Y-MOTネットワークのホームページが出来ました！
<http://yonezawanet.jp/Y-MOT/> へどうぞ！



『私とMOT』シリーズ編

MOT四期生 山形信用組合

二宮 隆次 氏

MOT入学の動機

1990年代半ば頃から、住専や不良資産、会社の系列、終身雇用制、大店法などがTV等で報じられ、社会的な問題として表面化し、それらを背景に金融ビックバンをはじめ、数多くの分野において規制緩和政策を急速に進め、バブル崩壊後の閉塞した経済の立て直しを、グローバルの名のもとに図ろうとしてきた。

しかしながら、「この置賜地域においては、1996年をピークに事業所数は減少が続き、雇用の場が狭められ、さらに正規社員から派遣社員、失業へと地域社会は疲弊が増すばかりでありました。金融機関に勤務し、30余年、ある意味過去を整理して、自分に何かできる」とはなかなかと模索していた時、ある先輩からMOTの存在を聞かされ、思い切って一步を踏み出すことにしました。

かみさんに熱い気持ちを打ち明けたところ、「私も入学したい」ということになり、二人で通学することとなりました。

そして、在学中…

技術経営についての講義と研究でありましたが、地域金融の実務を長く経験していくことから、どうしてもバックグラウンドの目で見てしまい、また経験からくる感性で判断してしまうため、学術的な論理的思考に強くギヤップを感じました。

壁に「ツカカリ試行錯誤していた自分に、「鳥になつてみてみろよ」、「キミの目線はこいだらう」、「いくら向こう側をみたいと挑戦しても、ここまでしかみえないんだよ」、「鳥のように高いところに視点を移してみると、景観が全く違つてみてくるよ」、「困っている自分もね」と、ご教授いただきました。

メタ思考に慣れてくると、視点が拡がり、多くの問題がみえてくるようになりました。それらをピラミッドストラクチャーしていくことで、課題は何かといったように、自分も論理的思考力が習得できたかななどと、自分で、自分を評価しています。

また、大きな財産となつたのは、研究等で多くの先生、コーディネータ、企業家とコミュニケーションの機会を得たことと、自分が歩んできた世界と全く異なった世界があることに気づかされたことである。

意志をもって、一步前進すると一步分の世界が、二歩進むと二歩分の世界が用意されている…素晴らしいね！それからクラスメイト、年齢もバックグラウンドも全く違う者たちが、一つの目標に向かつて走り続ける間に、能力を見出し合つて強い絆が構築され、達成感を共有することができました。

青春とは、心の若さである。サミュエル・ウルマンの詩を実感できた瞬間でもありました。

そして、昨日、今日、あした…

東北経済産業局の事業の一つで、22年度は「中小企業応援センター事業」を40事業所、また、23年度は「中小企業支援ネットワーク強化事業」の場で、100年に一度の金融危機と100年に一度の大震災に苦しむ地域企業家の支援に取組みつつ、自分がMOTで習得した分析手法やプレゼンテーションを駆使し、これから地域社会を創造し実現していくだろう

若手社員と事例研究を実施しています。

「早く始める」「小さな規模で始める」「早期に成功させる」を基本方針に、地域の小零細事業者と明日を語り、日々を楽しんでいます。

まだまだ青春真っ盛り…？

研究は全く進んでいませんが、22年10月からドクターに在籍中です。



サミュエル・ウルマン「青春の詩碑」

「コーヒーブレークで こんにちは！」

みなさま こんにちは、コーヒー ブレイクの記事を担当しております黒田三佳です。

追伸：みなさまからのコーヒー ブレイクなご連絡、お待ち致しております。



デンマークの小学校で、子供たちに米沢のお話を手作りの紙芝居で。

夏至を迎えた米沢で、キャンドルナイトを楽しむこのごろです。子育てが一段落してからの修士号取得というキャリアパスは、様々な出会いのきっかけとなりました。

STEP理論(修論で発表した思いやりマナーの要素)で、ホスピタリティ溢れる双方向の居心地の良さが世界中に広がることを夢みています。感謝を込めて。

平成23年度 新入生顔合せ会開催！

4月23日(土)、MOT恒例の新入生顔合せ会を開催致しました。16名の新入生とゲストの方々、そして先生方・在校生、OBと総勢60名の参加を頂きました。渡邊代表の挨拶に続き、活躍するMOTメンバーの紹介として、MOT4期生の黒田三佳氏による「人・自然・動物の共生」、山形で出会えた小さな幸せの種の演題にて御講演を頂きました。引き続き、社団法人米沢工業会の常務理事、山崎洋一郎氏から、工業会の歴史や現状についてお話を頂きました。また商工会議所浦和支所長・濱中真人様でした。ゲストの方々は、電振協相談役・外山新一様、米沢電機工業会開発部会長・矢萩優様、米沢工業会・山崎洋一郎様、さつま商工会議所浦和支所長・濱中真人様でした。フロアいっぱいに、MOTの若さと知性が溢れた楽しいひとときでした。新入生頑張れ！



(社)米沢工業会、山崎常務の御挨拶



活躍するMOTメンバー、黒田三佳氏(MOT-4)の御講演

左端は司会の江口幸也氏
(県産業技術振興機構:MOT-2)

新入生の皆さんです。
右から、
奥山将太さん
小川篤さん(ものづくり)
高橋恵美さん
佐藤弘男さん
広川勝さん
富田康男さん
安部綾人さん(ものづくり)

勝目正さん(後期コース)
劉永星さん(東北MITRAI)
余飛城さん(右同)
劉卉さん(右同)
莫琳琳さん(東北MITRAI)
高橋文弘さん
阿部誠さん(グローバルコース)
佐藤春樹さん(右同)



← 乾杯の音頭は飯塚先生

和気あいあいの会場風景



中閉めは株ソルテック
浅間季藏氏(MOT-3)

山形大学有機エレクトロニクスセンター紹介！

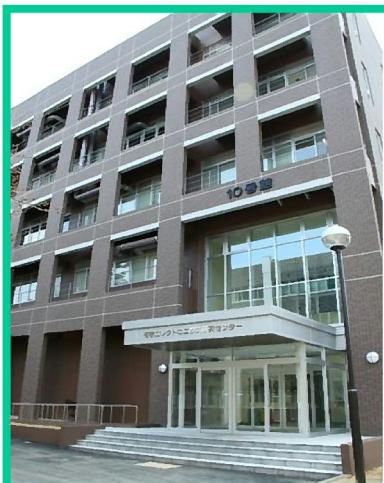
有機EL・有機太陽電池・有機トランジスタの主要部門からなり、ノーベル章級の卓越研究教授「ドリームチーム」を核に、新進気鋭の研究者からなる世界一の先端研究拠点。シリコン半導体に代わる次世代の革新的な有機エレクトロニクス技術で、地球に優しい未来社会の創出と有為な人材を育成します。

尚この度、経済産業省の支援により、「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」(仮称)の開発施設の設置が決まりました。場所は「米沢オフィスアルカディア」に建設予定。クリーンルーム(1500m²)のほか、研究室や商品試作室、事業化支援室など平屋建て約4000m²。

2012年秋の完成、2013年4月の開所をめざす。

(センター概要)

- 場所 山形大学工学部キャンパス内
 - 総面積 5700m²
 - 階数 5階建て
- 有機エレクトロニクス研究センターHP
<http://organic.yz.yamagatau.ac.jp/index.html>



MOT広場

自由投稿のページです。

「みちのく福島路ビール」、吉田重男さん(M-5)

からの会社紹介です。



福島路ビールの吉田です。今年の3月に卒業いたしました。大震災で残念ながら学位記授与式が無くなってしまい、私の気持ちの中ではケリが着かず、何か残っています。

「有限会社福島路ビール」は、地ビールの製造販売を行っており、工場は、福島市西部に位置し、JR福島駅から13キロほどで「アンナガーデン」という施設の中にあります。

この施設は全部で約1万平方メートルあり、「聖アンナ教会」を中心として、輸入雑貨の店、アンティーク家具、こけしの展示施設、土産物店、ピザの店、陶器の店、駄菓子の店、ガラス細工の店など現在17業者で21店舗があります。

地元の建設会社が経営していた地元の建設会社が経営していたレスト

ランの付属施設として平成9年3月に販売を開始しました。担当役員として立ち上げから携わりました。しかし、地ビールのブームに乗ることもできずに生産量が伸びなかつた。初期投資が大きく借入金の返済ができるまでは利益が出でていなかった。そのため、数年で経営的に難しくなました。借入金の返済がなければ企業として生き残り立つものと思い、私が平成15年11月に会社を設立し、地ビールの事業を譲り受けました。

現在の生産量は年間150キロリットル程度で、全国の地ビール製造者196社（20年度末）中の15番目程度で、東北では2番の生産量です。

従業員は双子の子供だけで、長男が常勤で、次男が製造担当です。後はパートタイマーが7名の小さな企業です。

現在、ビールは8種類で昔ながらの製法で原料や酵母にこだわり、うまい成分の多い仕上がりとなっています。ビールの苦手な方にも好評です。修士論文のテーマである米麦酒（マイビール）を販売していますが、お陰様で販売量も徐々に増えてきております。

この度の大震災では、工場内では冷媒やシステムの配管が壊れた程度で自分たちで修理を行い、10日後には仕込みを開始しています。出来上がった製品には被害は少なく助かりました。しかし、空瓶が6千本ほど破損しましたことと浄化槽が壊れました。被害が大きかったです。放射能の風評被害もありました。福島県の食料品はいらないと、取引検査機関にて検査をいたしましたが、放送できる範囲以下で、その証明書を添付してもダメでした。



福島県産米「ひとめぼれ」と県オリジナル酵母「うつくしま夢酵母」を使用。吟醸酒の香りとまろやかな口当たりです。



<http://www.f-beer.com/>

みちのく福島路ビール

福島県福島市荒井字横塚 3-182 TEL 024-593-5859

MOT事務局より、大学の動きやMOT専攻に関わる情報をお知らせ致します。
☆23年9月修了者修士学位論文公聴会

場所 国際事業化センターセミナーホール
9時50分～12時20分

☆科学フェスティバル・イン・よねざわ
7月30日(土)～31日(日)
10時～16時

場所 山形大学工学部4号館
恒例の科学体験カーニバルが開催されます。次世代を担う子供達の感性をはぐくみ育てる機会を提供。

☆山形大学工学部オープンキャンパス
8月5日(金)

・各学科紹介と模擬講義・何でも相談
・コーナー・有機EL体験ゾーン
・旧本館(国重要文化財)、図書館公開
・各研究室公開等

MOT事務局

MOT事務局便り

《編集後記》 機関誌Y-MOTネットワークも、本号で第8号を迎えることになりました。会員の皆様の御協力・御支援によりまして、創刊以来2年間を経過することになります。月日の経過は早いものです、特にOBになると感じるのかもしれませんか？

今回、米沢市の補助事業の支援を受けて、ホームページを開設する運びとなりました。企画委員の方々の御協力を頂き、内容を充実させてまいりたいと思っておりますので、是非会員の皆様の御意見を寄せ下さい、御待ちいたしております。

今年度の新会員も16名を迎えましたが、新入生顔合せ会にも全員の参加を頂き盛大に催すことが出来ました。学生・OB・先生・ゲストの交流も、今までにないほどの活況でした。MOT専攻コースも益々活性化する手ごたえを感じたのは、我々だけではないと思います。大震災、政治の行方が混沌とする中で、教育や人材育成の芽を育むことを忘れないようにしたいものです。